

2017 10/24

No.2053

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
—神奈川政経懇話会—



横須賀市神明町の公園「くりはま花の国」で、コスモスが見頃を迎えている（9日撮影）。公園内のコスモス園（約1.8ヘクタール）には4種類約100万本のコスモスが植えられ、28、29日は花摘み大会が行われる。



## contents

視点・点描	3
読書の秋に「日本文学」を	
講演録	4
安倍政権の今後の展望 ～どうなる憲法解散、衆院解散 ジャーナリスト、テレビ朝日コメンテーター 川村 晃司	
国際	8
自給率38%、食料安保は大丈夫か スイスは国民投票で憲法に明記	
企業最前線	12
砂糖各社、糖質離れに対応 機能性の甘味料を強化	
くらし2017	14
外国人介護 ^2年目の壁、	
広告珍談	16
広告はたのしい⑤〇 馬を探して—最古の野外広告	
NNAアジア経済リポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

### 事務局だより

◇11月定例講演会  
2017年11月13日(月)  
午後1時30分～3時  
ロイヤルホールヨコハマ3階  
「シンフォニー」  
講師は拓殖大学大学院国際協力学科特任教授の武貞秀士さん  
演題は「最新の朝鮮半島情勢を読む」

# 視 点 描 点



## 読書の秋に「日本文学」を

今秋、国内では突然の衆院選、国際的には北朝鮮をめぐる攻防など、落ち着かない日々が続く。毎日のニュースにやきもきするが、せつかくの秋の夜長、読書をして心静かな時を過ごしてみるのもいい。

神奈川新聞ではことし4月から、「今の神奈川」の情報をより充実させた紙面「イマカナ」を毎

日展開している。その日曜版で、

新進気鋭の若手作家や文学学者6人による連載「日本文学 あの名場面」を隔週で掲載中だ。近現代の失脚を取り上げた10月1日

日本文学の名場面を、それぞれの執筆者が独自の解釈を施し、筆を振るう企画。すでに3回掲載した

が、私自身、「日本文学をもう一度、読み直したい」という気持ちになっている。学生の頃読んだ名作

も、大人になつてから読み直すと、新鮮だ。連載では、原文もじつくり味わつてもらおうと、その名場面を抜粋して掲載している。

初回は、小説家の平野啓一郎さんが、芥川龍之介の「蜜柑」を紹介した=9月17日掲載。芥川は「蜜柑」執筆当時、27歳だったそうだ

が、その若さでこんな文章が書けたのかと思うと、驚くばかりだ。

今、目の前で起きているような鮮烈な情景描写に、何度も読み返しあくなつた。平野さんの解説も分かりやすく、読み応えがある。

2回目は、小説家の田中慎弥さん。池澤夏樹著「マーシアス・ギリ

の失脚」を取り上げた=10月1日掲載。田中さんの解説はこう始まる。「私はこの小説をこれまで何度も、いろいろな『発見』がある。そんな『案内役』となつていていただけたらと思う。

(神奈川新聞社文化部長)

がこんな思いを抱く「マシアス・ギリの失脚」とはどういう小説なのだろう。冒頭から引き付けられ、遅ればせながら、私も書店で取り寄せて読み始めた。

文学者の阿部公彦さんがひもとくのは、川端康成の「雪国」=10月15日掲載。多くの人が一度は読んだことがあるであろうあの名作を、阿部さんがどう語るのか、原稿がくる前から興味津々だった。

届いた解説がこれまた言い得て妙で、しかもおもしろい。「これほどまでに『雪国』を有名にしたのは、こうした理由があつたのか」と、納得した。

さまざまなものを作らためて読むと、いろいろな『発見』がある。そんな『案内役』となつていていただけたらと思う。

秋山 理砂

## 馬を探して——最古の野外広告

人間が発する「声の広告」につ

づいて現れた広告は、耳ではなく、目に見える方法。視覚に訴求する手段である。絵で描いたり、文字で書いたりした看板である。

現存する最古の看板は、図であ

る。なにが書かれているのか。

むかし、お坊さんが馬に乗つて

いた。ある日、その馬がいなく

なった。逃げだしたのか、それと

も悪い人に盗まれたのか。お役人

はいろいろ聞いて、木の板にさら

さらつと書いた。

「告知 往還諸人 走失黒鹿毛

牡馬一匹 在験片目白 額少白

件馬以以今月六日申時 山階南

馬の持ち主は、興福寺のお坊さ

花園池辺走失也 若有促者可告

來山階寺中室自南端大三房□

九月八日」(□は判読不能)

要約するところだ。道行く方々

にお知らせします。黒い体毛のオ

ス馬が一頭、逃げだしました。特

長は片目が白く、ひたいも少し白

い。九月六日の申の時刻、山階

寺の南の花園にある、池の辺りで

いなくなりました。もし見かけた

り、捕まえられれば、山階寺の中

室の南端から三番目の房までお知

らせくださいと。山階寺とは、奈

良の有名な興福寺の古い名称。花

園にある池とは、猿沢の池。

馬の持ち主は、興福寺のお坊さ

んであった。中室とはお坊さんの住まい、房とはその一区画である。「告知」とは「広告」の2文字が登場する以前の用語で、広告を意味する。

1メートルほどの細長い木の板に、墨書きされ、尖った先端で、地面につき立てられた。道行く人々が渡来しても、紙の発明はまだまじなくなりました。もし見かけただ先のこと。古代の人びとが文字を書いたのは、ネンド板であったが、ただその結果の記録はなかつた。書いた文字が残せるもの

であれば、何でもよかつた。木の板は、りっぱな筆記材料である。

それを「木簡」という。

簡、物品の整理札、地方からの租税物品の荷札など2万5000点ほど出土した。ともに掘りだされた木簡に「天長」の年代が記されているため、この広告板も820年代のことと推定された。すでに平安京に遷都され、新しくいたが、いつしか土中に埋まつた。その道路脇に立てられてあった。その道路脇に立てられていたが、いつしか土中に埋まつた。最古の野外広告物である。

はてさて馬は、お坊さんのもとへもどつただろうか。

広告効果があつたと期待したいが、だけどその結果の記録はなかつた。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)  
(国)「告知」と書かれた木簡。奈良国立博物館蔵